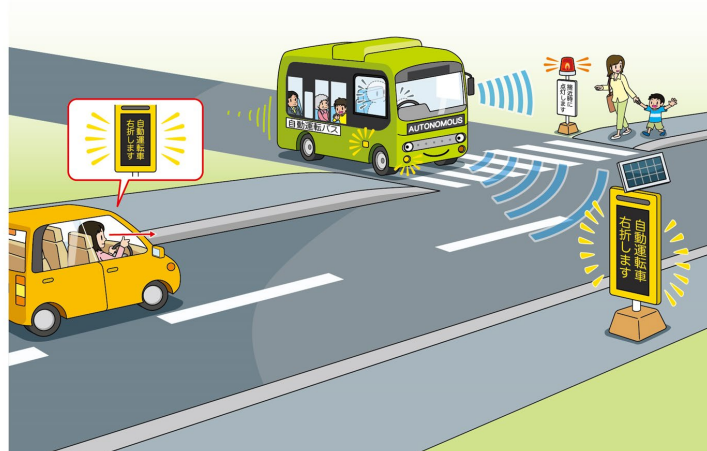




報道関係者 各位

2019年12月12日
株式会社アークノハラ**池袋における自動運転バス実証実験
「バスが近づくとお知らせする情報板」を設置
～都市部に自動運転車を導入するためのインフラ整備～**

株式会社アークノハラ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：岡本 力、以下：アークノハラ）は、国土交通省と国立大学法人群馬大学（学長：平塚 浩士、以下：群馬大学）が連携して実施する「池袋における自動運転バスの実証実験」に協力し、自動運転バスの指示により表示を変える「バスが近づくとお知らせする情報板」を設置します。



■左：「バスが近づくとお知らせする情報板」、右：情報板と自動運転バスの連携イメージ（図1）

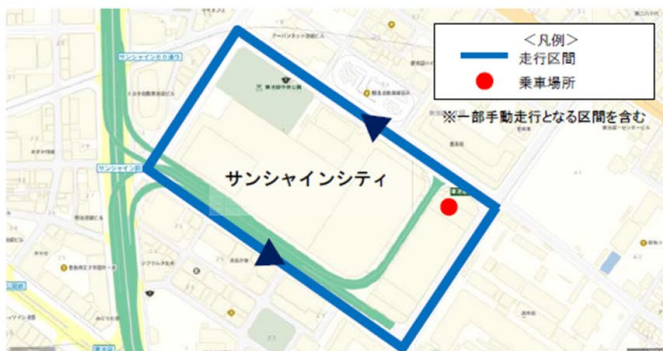
今回の実証実験では、自動運転バスの走行路線沿いに駐車場があり、その駐車場から出てくる一般車両および周辺の一般車両に対して「バスが近づくとお知らせする情報板」を使い、注意喚起します（図1を参照）。そして、多数の来街者や自動車交通がある都市部における課題や、比較的低速で走行する自動運転車両と従来の一般車両が混在すること（以下：混在交通）により予想される混雑・錯綜などに対し、安全に自動運転車を社会が受容するために環境整備側で何が必要なのかの知見を得たいと考えています。

実証実験の概要**1.概要**

名称	池袋における自動運転バスの実証実験
実施予定期間	2019年12月13日(金)～2019年12月14日(土)
実施場所	東京都豊島区東池袋3丁目地内
実施目的	多数の来街者や自動車交通がある池袋サンシャインシティ周囲の公道をフィールドに自動運転バスの導入における都市部特有の課題や社会受容性などを検証
アークノハラ 実験概要	「バスが近づくとお知らせする情報板」を設置し、自動運転バス走行状況を周辺環境に周知、社会受容性を喚起

2.バスが近づくとお知らせする情報板

アークノハラが設置する「バスが近づくとお知らせする情報板」（電光掲示板）は、自動運転車両と電光掲示板が通信を行うことにより、電光掲示板の表示内容を切り替えることができる装置です。本実証実験では、自動運転バスからの指示により「バスが近づくとお知らせする情報板」に「自動運転車接近中」の表示をさせることで、周辺を走行中の一般車両に対し注意喚起します。



【実験車両】
eCOM10(自動運転機能を搭載した低速電動バス)
【走行条件】
・テストドライバー乗車有
・モニター乗車有
・自動運転レベル2相当(特定条件下での自動運転)

■出典：国土交通省プレスリリース (https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09_hh_000057.html)

アークノハラ×自動運転 | 社会受容性を高める、道路側の安全対策への取り組み

道路環境の安全は、道路や橋・トンネルなどの構造物としての安全はもちろん、歩行者を含む道路利用者の注意により守られています。道路標識や視線誘導標、電光掲示板などの交通安全施設は、道路利用者への案内や注意喚起をサポートする重要なアイテムの一つであり、横断歩道や信号、急カーブや下り坂の存在や雨・風・凍結などに対する注意を促すことで道路環境の安心・安全をサポートします。

<自動運転時代への過渡期における混在交通>

一般道路における路車間協調を行う交通安全施設の意義は道路側の安全対策

社会が自動運転車両を受容するためにも道路の安全は守られなくてはなりません。

私たちが取り組む「路車間協調を行う交通安全施設」は、自動運転車両の走行場所やその動作予告を周囲の人に伝えることで、道路環境の安心・安全をサポートします。

▶路車間協調を行う交通安全施設の数々_左から順に「バスが近づくとお知らせする情報板」(左2つ)、「自動運転バス走行に関するサイン」、「自動運転バス乗り場案内」



株式会社アークノハラについて

株式会社アークノハラは、「安心」「安全」「快適」な街づくりを合い言葉に、道路標識や視線誘導標、歩行者用観光案内標識などのサイン、ガードレール・遮音壁などの安全施設製品について、設計～製造～施工の一環したネットワークを構築してまいりました。これからも交通事業の発展及び環境整備の拡充と、安心安全な街づくりに貢献してまいります。

また群馬大学との共同研究等で得られた知見を公共インフラとして行政関係者、自動運転事業関係者とともに活用してまいります。

【会社概要】

株式会社アークノハラ

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：1987(昭和 62)年 8 月 3 日

資本金：5,000 万円

代表取締役社長：岡本 力

▼会社ホームページ

<https://arc-nohara.co.jp/>

野原ホールディングス株式会社について

2017年、創立70年を迎えた野原グループは、これまで建設業界を中心に建材や鉄鋼関連およびセメントなどの建設資材、道路交通標識などの販売・施工を通して、事業を拡大するとともに、時代の変化に合わせた変革や創造を繰り返しながら成長してきました。

近年は、「Innovation」・「Digitalization」・「Globalization」をキーワードにユニークな事業の創出を目標に掲げております。プロ向け建材通販サイト「アウンワークス」や建設情報のデジタル化を目指す新会社「BIMobject Japan 株式会社」、グッドデザイン賞受賞商品のみを販売する国内初のデザインショップ「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」、特別な思いと時間をシェアする場所「レンタルキッチンスペース Patia」、新しい表現を模索する人たちのための、自由な発想に寄り添う壁紙ブランド「Wh0」など、新規事業を展開しています。



【会社概要】

野原ホールディングス株式会社

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：2017年1月5日

資本金：4億8,000万円

代表取締役社長：野原 弘輔

▼会社ホームページ

<https://www.nohara-inc.co.jp>

【本技術協力に関するお問い合わせ】

株式会社アークノハラ

営業戦略部企画開発室(担当/安田、荒木) 電話：03-3357-2442

【本リリースに関する問い合わせ先】

野原ホールディングス株式会社

社長室(担当/齋藤、中島) 電話：03-3357-2231

e-mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp